

広島市まちづくり市民交流プラザ運営委員会 第三回運営委員会 会議録

日 時 平成 25 年 2 月 13 日(水) 15 時 00 分～16 時 30 分

場 所 まちづくり市民交流プラザ 南棟 4 階協議室

出席者 (委 員) 柿本委員、中島委員、波多野委員、弘中委員 (欠席：東委員)
(プラザ) 田村館長、新谷

議事及び会議要旨

議事 1. 広島市まちづくり市民交流プラザ事業について (進捗状況の報告)

広島市まちづくり市民交流プラザ事業の 1 月末現在の進捗状況を報告し、意見が交わされた。

・広島には多くの外国人も暮らしており、地域の中に溶け込むためにもそのような方が気軽に参加できるような事業があればいいと思う。

○市民交流フェスタには、中国の留学生グループと国際交流事業に取り組んでいる団体がバザーに、インドの交流団体が展示で参加いただいていた。

・観光アシスタント講座の受講者はその後どれくらい活動しているか。

○昨年度は 19 人程度受講され、半数近くがグループに加わって活動を続けているようである。

・パソコンサロンは年 30 回となっているが、5 月の市民交流フェスタと 9 月の高齢者作品展に合わせて開催したものへの参加者が少ない。また人材バンクの紹介件数には、毎月の発表会と市民交流フェスタの実績は含まれているのか。

○通常のパソコンサロンは偶数月の日曜日に開催し、基礎的な使い方への質問に対応する内容となっているが、5 月と 9 月に開催のものは、デジカメ画像でカードづくりをするなど、イベント的な内容で行っていた。ニーズはあると思っていたが利用が伸びなかった。

なお、人材バンクの紹介件数には毎月の発表会と市民交流フェスタの実績は含んでいる。

・入館者数が前年比で減少しているようだが、これは減点になる。プラザを外観から見ると、知らないものには何をやっている施設なのか分かりにくい。商店のように外観から何をやっているのかわかるようにできないか。そうすれば自分のニーズとマッチしていれば門をくぐると思う。公民館をよく利用している仲間内でもプラザを知らないというものが多い。中に入るといろいろ工夫していることはわかるが、玄関や入口付近で、初めて通りかかった人から見て、雰囲気を感じるような施策がいるのではないか。建物を作りかえるのではなく、例えば木の植え込みにはプラス・マイナス両方あるが、プラザは枝が張って入口周辺が見えない。まず施設に入ってもらいたいので、施設を知らない人が気軽に寄れるような施策を委員も含め考えなくてはならない。

・相談コーディネート事業のうち、その他窓口相談の件数が多いが、これは相談事業に値するのか。日常の窓口相談が件数としてカウントされるのはおかしい。相談は件数を争うものではない。中身が重要である。

・まちづくり学校への参加が少ない。対象はいろいろあると思うが、今どの地区も「まちづくり」という言葉で考えていないところはないくらい底辺は広い。子ども向け、環境問題、高齢者向け等、全てまちづくりでくくって、何をしたらいいのか、どうやって人や資金を集めたらいいのか、悩んでいない地域はないと思っている。それに関連して、各区にまちづくりの支援をする窓口があるが、地域のはまずそこへ行っている。区役所のまちづくりの窓口とプラザがパイプを持って連携できればよいと思う。地域の悩みのデータが集まると、それをフィードバックさせるような講座にすればニーズはあると思う。

・プラザメイトについては、携帯やパソコンにプラザから情報が届くのか。利用者にとってはよいことなので、しっかりPRして件数を増やしてもらいたい。

・1階にカフェはできないか。堅い雰囲気なので、もっと出入りしやすくなるのではないか。
○カフェは目的外となるので難しい。他の公共施設でも採算の面で難しいようである。また、入りやすい施設としては、全体的に建物自体の表現力は街中に溶け込んで分かりにくいかもしれない。掲示板の工夫をもっとしたい。人通りに面したガラス面にポスターを貼るなど、小さな工夫はしているが、一般的に広報力は弱いと感じている。

・委員も一緒に考えていきたい。大きくなった枝葉を少し整理するだけでも良いと思う。
○区役所との連携については、これからお互いに何かネットワークができないか情報交換をしていきたいと考えている。そうすることで、まちづくり学校へのリクエストも出てくると思う。

・プラザの前身にボランティア総合支援センターがあったが、ボランティアの総合支援の場でもあってほしい。

・地域でまちづくりを考えた時、高齢者の支援など、出てくる案件の8割は福祉である。草刈りひとつにしても、活動に必要な小物や資金をどう区役所から支援を得るか悩んでいる。ボランティアも経費を負担となると誰も集まらない。エネルギーだけ貸してほしいという状況でないといけない。地域は区役所と何度もやりとりしながら動いている状況である。

・事業計画の中に若者が参加できるようなプランは何件あるか。まちづくりには支援が必要であるが、若者がいなくなっても地域は衰退する。プラザは何かの特化するよりも、いろんな機能がないといけない。年1回はボランティアについて学習している学生にプラザを紹介しているが、具体的に活動につながるようなプランの発信ができる魅力があるのではないかと一緒に考えていきたい。

・若者がいないのは地域の悩みでもある。20代30代は忙しい世代で参加がなかなか難しい。現在は元気な中高年が若者に代わっている。

・元気な中高年が若者や子どもとの里機能（おじいちゃん、おばあちゃんとのふれあい）を果たしてもらいたい。現在の幼稚園にはそうしたことも求められてきている。

○若者にも開放しているが、利用の中心はシニア層になっている。

・若者も大人も、メリット無しにボランティアに時間は割かない。やったらおもしろかった、達成感があった、満足感があった。そこが原点である。そうしたものを感ぜられるものが必要である。

・ボランティアの目的もいろいろあるが、そこから社会に関わって人として成長できるきっかけとなる。

・必要とされていることが大切である。

議事2. 平成25年度広島市まちづくり市民交流プラザ事業計画書（案）について（説明）

平成25年度広島市まちづくり市民交流プラザ事業計画書（案）について説明し、意見が交わされた。

・a-ネットやホームページなどは若者もよく見ると思うので、ぜひそういうところに若者の関心を得られるような情報発信をお願いしたい。

・プラザはどの部分に力を入れるといいか。ターゲットが若者なのか、中高年なのか、高齢者なのか。どの世代を狙うかは重要である。狙いによって講座の内容も変わってくる。

・講座によって中高年向きとか若者向きとか対象者をしばってはどうか。

- ・利用の男女比はどうなっているか。

○平成23年度実績の男女比率は、男性約35%、女性が65%となっている。

- ・地域から見たら、もう少し中高年男性をターゲットにして、社会参加を促すような講座・イベントがほしい。

○特色を出したいと思うができていない。

- ・地域力が低下しているひとつに行政任せのところがある。地域力のあるところは、自分たちで何とかしようとしている。プラザはその間（グレーゾーン）への対応をしてもらいたい。特色を出すとなれば、中高年男性向けに力を入れてもらいたい。

議事3. 広島市まちづくり市民交流プラザ管理・運営について（意見交換）

平成25年度まちづくり市民交流フェスタの紹介と進捗状況を報告し、次回開催日を協議した。

- ・次回は平成25年度の開催となり、6月19日（水）午後3時からの開催予定とさせていただく。